病児保育室「あんず」のチョットアノネ

テーマ：ウイルス性胃腸炎の対応

No94.（2025.3.20.）

ウイルス性胃腸炎とは

ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルス、アデノウイルス、アストロウイルスなどのウイルスが原因で起こる胃腸炎で、嘔吐、下痢、腹痛、発熱の症状がみられます。一般に感染性胃腸炎として扱われています。宮城県内でも亘理地域でも、ここ数週間はウイルス性胃腸炎が大流行しています。飛沫感染、接触感染、経口（糞口）感染により伝染し、ノロウイルスは半日～2 日、ロタウイルスは 1～3 日の潜伏期間がすぎて発病します。突然の嘔吐で発病し、それとともに、あるいは少し遅れて下痢することが多いです。多くは 2～7 日で治りますが、時には脱水症、けいれん、脳症を合併して重症になります。

ウイルス性胃腸炎の治療

脱水症を防ぐために経口補水液（ＯＳ－１など）による水分やイオンの補給が重要です。吐き気止めの坐剤や注射をすることもあります。脱水症がひどくなれば点滴を行ないます。軽い脱水症の場合は経口補水療法として少量の経口補水液をゆっくり、頻回に飲ませる治療法があります。嘔吐が治まれば食事の再開は早く行い、普通の食事（固形食を含む正常食）とします。下痢が長引いたり、合併症が疑われる場合は速やかに医療機関を受診して診療を受けて下さい。

ウイルス性胃腸炎の拡大を防ぐ

症状がある間が主なウイルスの排泄期間です。ウイルス性胃腸炎は吐物や便を介して伝染しますから、吐物は使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、テッシュなどでふき取り、その後 0.1%の次亜塩素酸ナトリウムで消毒します（アルコール消毒は十分ではありません）。消毒後は充分に部屋の換気を行ないます。ドアノブなどの人が多く触れる場所は 0.02%次亜塩素酸ナトリウムで消毒します。おむつ交換後やトイレの後は流水で充分に手を洗うことが大切です。汚染した衣類は廃棄するか 85℃以上の熱湯で消毒します。〈次亜塩素酸ナトリウムが 5～6%の原液ハイターをキャップ 2 杯（10cc）とり水道水で 500cc にすると、0.1%次亜塩素酸ナトリウムとなります、これを 5 倍に希釈すると 0.02%になります〉。

現在流行している病気は何ですか？

宮城県内では：第１位　感染性胃腸炎、　第２位　新型コロナ、　第３位　溶連菌感染症
亘理郡内では：第１位　感染性胃腸炎、　第２位　新型コロナ、　第３位　アデノウイルス感染症

大友医院病児保育室「あんず」より

現在はスギ花粉が大量に飛散しております。スギ花粉症の人は注意してください。Ｂインフルエンザが少し出ていますがインフルエンザ自体は激減しました。新型コロナウイルス感染症は横ばいですが、ウイルス性胃腸炎は大流行です。県内では溶連菌感染症も流行していますし、亘理地域ではアデノウイルス感染症も出ています。感染性胃腸炎ではアルコール消毒の効果が弱いので、トイレの後やオムツ交換後の石鹸での手洗いが大切です。

病児保育室「あんず」：電話　０２２３－３５－６４５５